

人口減少・地方創生 プロジェクト

市では、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)などの人口推計を基に将来の目標人口を定めた「留萌市人口ビジョン」を策定しました。



留萌市の人口減少の抑制 地域社会の維持に向けて

国は、急速な少子高齢化に対応し、人口減少に歯止めをかけることを目的に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に取り組んでいます。

これを受けて市は、留萌市の人口減少の速度を抑制し、将来にわたり地域社会を維持することを目的に「留萌市人口ビジョン」「留萌市総合戦略」の策定を進めています。

人口の将来展望

「留萌市人口ビジョン」では、人口の将来展望として、2040年に社人研の推計値を1008人を上回る1万4678人を目指していくことを決めました。このため下記で示している目標人口推計のとおり、留萌市人口ビジョンで立てた2010(平成22)年から50年後の2060年までの目標人口推計では、社人研が示した5年ごとの平均人口減少率

目指すべき将来の方向性

- 「地域産業の強みを活かし、魅力とやりがいを感じて働くことができるまちづくり」
- 「留萌のブランドを活かし、人と人との交流により、元気に過ごせるまちづくり」
- 「留萌市で結婚し、子どもを産み育てたいと思えるようなまちづくり」



目指すべき将来の方向性

人口が減少すると地域内の消費活動も減少してしまうため、地域産業や雇用の場などの縮小にもつながり、人口流出が加速する悪循環を起すことにもつながります。また、人口減少と高齢化は、さまざまな分野で大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

人口の将来展望

2040年
14,678人

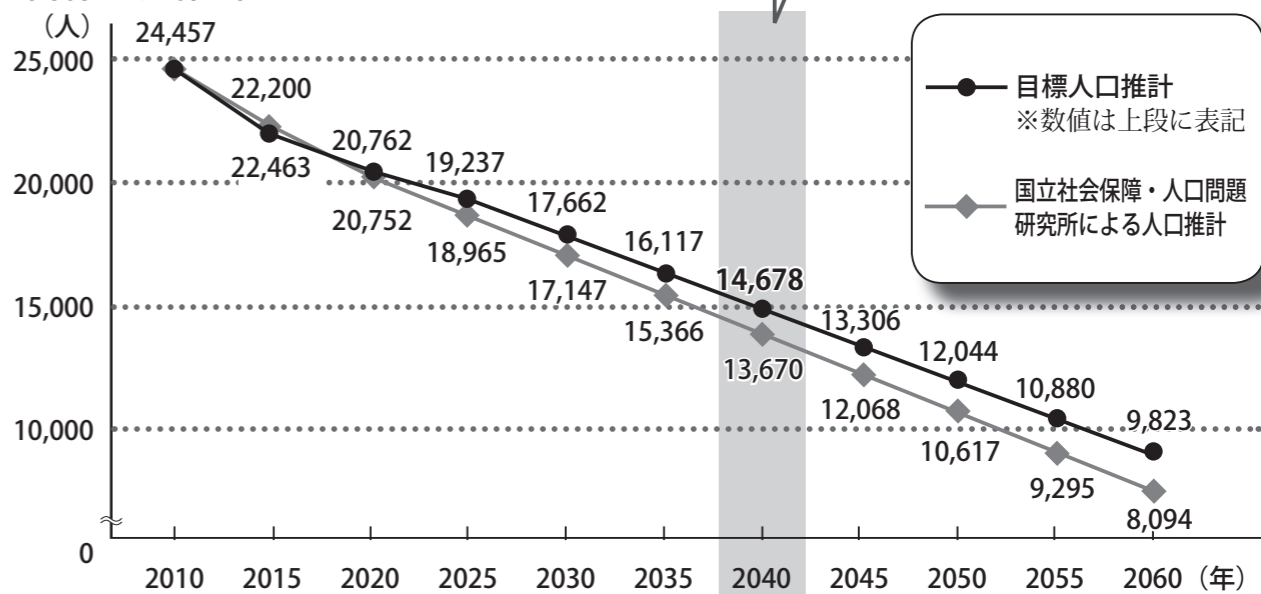
社会減の抑制

(※移動率)
25~29歳 15%増加
0~64歳 15%抑制
65歳以上 10%抑制

出生率の向上

現在 1.60
2030年 1.80
2040年 2.07

目標人口推計



留萌市は、1965(昭和40)年をピークに急激な人口減少が続いており、毎年1.5%前後ずつ人口が減り続けています。1970(昭和45)年以降は、転出数が転入数を上回る社会減が一貫して続いています。特に高校卒業後の進学や就職に伴った転出が目立ち、若い世代の流出が続いています。

また、2005(平成17)年以降は、死亡数が出生数を上回る自然減に転じており、現在も出生数は減少傾向で、一方の死亡数は増加傾向で推移しています。人口減少の抑制や地域社会を維持していくためには、これらの課題解決が不可欠です。

このため市は、「地域産業の強みを活かし、魅力とやりがいを感じて働くことができるまちづくり」「留萌のブランドを活かし、人と人との交流により、元気に過ごせるまちづくり」「留萌市で結婚し、子どもを産み育てたいと思えるようなまちづくり」の3つの柱を立てました。

具体的には、「地域産業の強みを活かし、魅力とやりがいを感じて働くことができるまちづくり」は、既存の地場企業の強化と支援、農業や漁業、水産加工業の強みが発揮できる仕事の創出などに取り組みます。また、「留萌のブランドを活かし、

人と人との交流により、元気に過ごせるまちづくり」は、るもい健康の駅を中心に健康でいきいきと過ごせるまちづくりを推進するとともに、市民と道内外の方とが交流し、笑顔があふれるまちづくりを目指します。

「留萌市で結婚し、子どもを産み育てたいと思えるようなまちづくり」は、留萌市で結婚・出産・子育てができるまちづくりを推進し、若い世代の希望が実現できるまちづくりを目指します。

この3つの柱を「目指すべき将来の方向性」として、社会減の抑制や出生率の向上などに取り組んでいきます。

市では、この「留萌市人口ビジョン」に基づき、人口の社会減・自然減の抑制に向けた具体的な施策を盛り込んだ「留萌市総合戦略」の策定を進めています。

「留萌市総合戦略」は、2015(平成27)年から2019(平成31)年までの5力年の数値目標とその具体策をまとめています。

お問い合わせは

政策調整課 ☎42-1809
<http://www.e-rumoi.jp/>